

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

4月に全国学力・学習状況調査を実施しました。これは義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としています。

結果を基に本校児童の学力の状況を分析し、学力向上についての対応策をまとめました。その概要をお知らせします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心, 授業内容の理解度, 読書時間, 勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況など

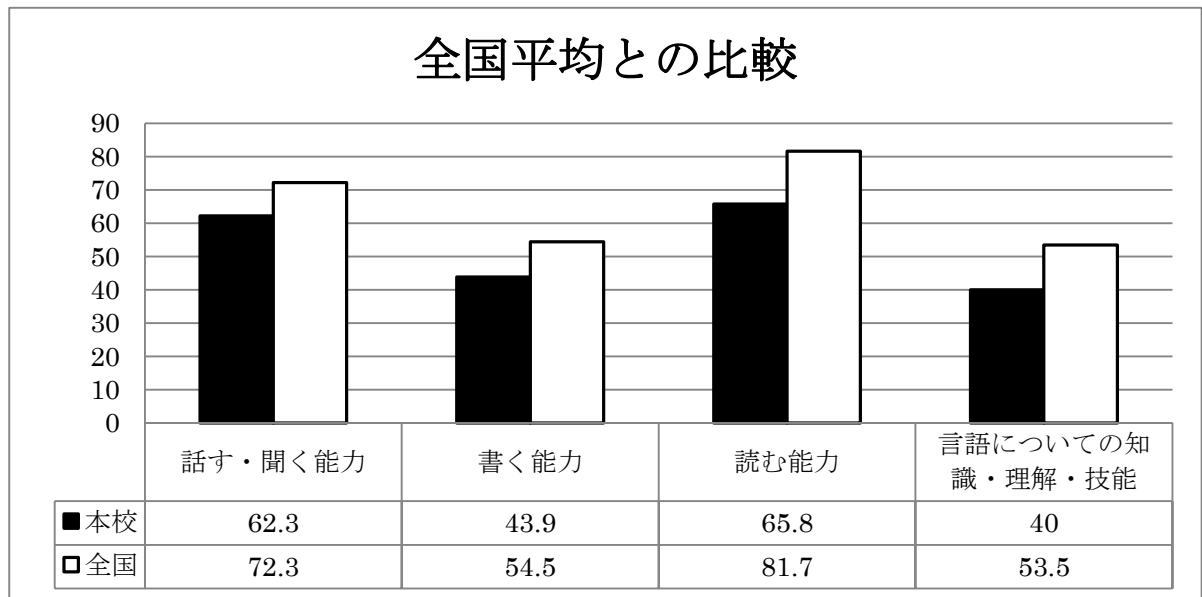
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生が対象であり、教科は国語, 算数(数学, 英語)です。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



全ての観点で全国平均正答率を下回っている。正答数分布では、全国と比べて、中位群から下位群にかけて分布が偏っている。無回答率は全国に比べて比較的少ない。

(2) 成果と課題

活用に関する問題（記述式）では、3つの問題いずれにおいても正答率が全高平均より有意に（10ポイント以上）低く、課題である。問題を正しく解くためには、①問題文から何を尋ねられているかを正確に把握する、②文章や資料から必要な情報を取り出し整理する、③題意（条件）に沿って分かりやすく表現をする力が求められる。また、このような思考・表現を支えるためには、生きて働く知識・技能を身に付けておかなければならない。このような力を相互に発揮させ一体的に育めるような授業の工夫が求められる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

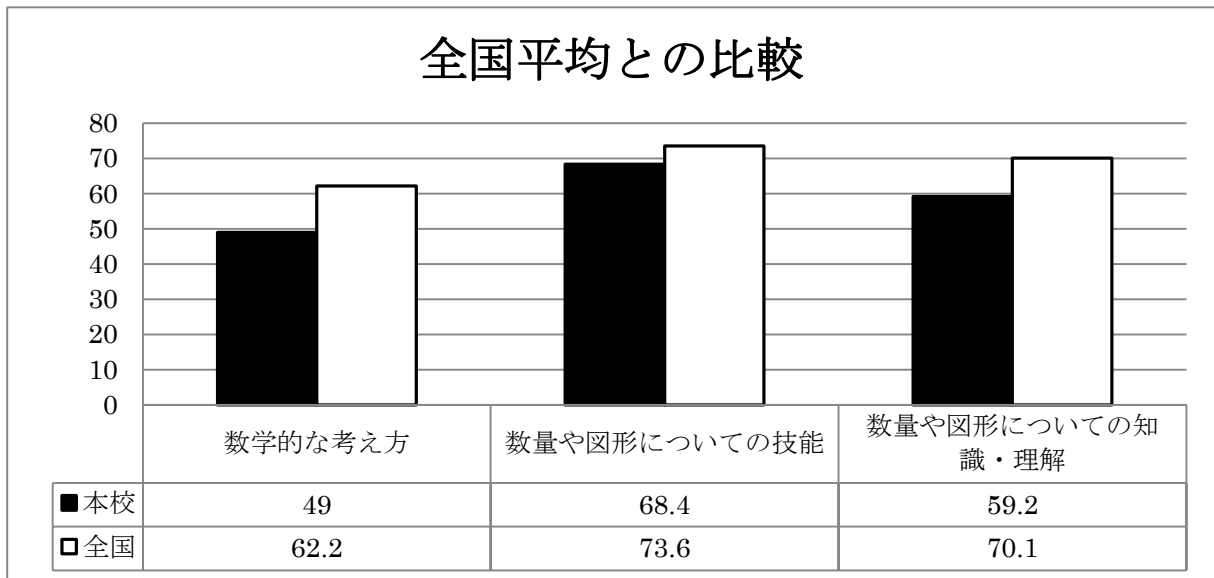
- 読解力（情報を取り出し、整理したり活用したりして考え、自分の考えを分かりやすく伝え・表現し、互いに吟味し検討しあって考えを深め合う力）の育成を校内研究の主題に設定し、身に付けるべき力を関連付けながら総合的に伸ばしていけるような授業づくりを行います。
- 読書に親しませると共に語彙力を高めるために、毎朝の読書タイム、にじ色50選（本校推薦良書）及び100冊読書達成者を目標にして表彰を行います。

【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 親子で読書を楽しんだり、新聞を読んで感想を伝え合ったりするなど、読むことや話すことが楽しいと感じる体験を増やしましょう。相手の話に共感したり、根拠を尋ねたりして、話題を広げることで語彙力も高まります。さらに、学校の取り組みである「にじ色50選」や「100冊達成」などについても話題にして、関心や意欲を高めていきましょう。

2 算数

(1) 結果



全ての観点で全国平均正答率を下回っている。正答数分布では、全国の正規分布に比べて上位が少なく、中位群に分布が偏っている。無回答率は、記述式問題において全国に比べて多いです。

(2) 成果と課題

活用に関する問題（記述式）では、3つの問題のいずれにおいても正答率が全高平均より有意に（10ポイント以上）低く、課題である。特に、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関しても成り立つ性質を記述する」問題に関しては、無回答率・誤答率が非常に高かった。計算ができるだけでなく、その仕組みを理解すると共に、なぜそのようにするのかということについて常に考え、説明（表現）できるようにしておく必要がある。

「図形」領域、及び「知識」に関する問題（選択式・短答式）では、全国平均と同等または若干上回る結果となっている。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを導き出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させ、関連付けて考えるようにします。
- 個人の考えを基に自分たちでよりよい解を求めていけるような、ペアやグループによる対話活動を活性化します。
- 複数教師による少人数授業を可能な限り行います。

【ご家庭では】

- 今、どんな学習をしているのか、宿題プリントやノートに目を通しましょう。励ましや称賛の言葉を掛けてもらうことで、子どもたちはやる気が増します。
- 日常の生活において、算数を使う場面（割引かれた品物の値段をもとめたり、速さを考えたりするなど）に出会わせましょう。習ったことが使えると、便利だな、おもしろいなという思いを経験し、算数好きになります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	94.7	86.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	42.1	38.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	63.2	58.7
自分には、よいところがあると思いますか。	21.1	38.8
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	42.1	50.1
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	28.9	30.1
学校のきまりを守っていますか。	39.5	46.7
人が困っているときは、進んで助けていますか。	34.2	40.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	84.2	85.0

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っている。しかし、本校独自の調査ではテレビやゲームに費やす時間が長いという結果が出ており課題である。さらに、自己肯定感情、家庭内での会話、挑戦心、規範意識、思いやりといった面でも全国平均を下回っている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	28.9	33.1
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	2.6	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	10.5	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	44.7	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	23.7	24.1
「30分より少ない」	13.2	7.6
「全くしない」	5.3	2.3

家庭学習については全国平均と比べて時間が短く、中には全く家庭学習をしていない児童もいる。上記のTV視聴やゲームの時間との関連が考えられる。家庭と連携しながら、家庭学習のあり方についても改善をしていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）も学年に応じて取り組んでいます。お手本になる自学ノートを掲示しており、定着しつつあります。
- 毎月一回の「ノーテレビ・ノーゲームデー」、学期始めの家庭学習強化週間、佐賀県作成の「家庭学習の手引き」の活用、学習規律・学習用具のきまり等を通して、家庭学習のよりよい習慣化を図っていきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目については、学校からプリントやメール等でお知らせをしています。趣旨をご理解の上、ご協力を宜しくお願いします。学校と家庭が連携・協力することが、よりよい学習習慣・生活習慣をつくる上で重要なことだと考えます。
- 地域の行事やボランティア活動などに進んで参加しましょう。様々な体験活動を通して、子どもたちの豊かな心が育っていきます。